

第2章-2 平均値が同じデータを比べて評価したい

例えば

面接を行った3名の中から採用者1名を決めたい
採用基準は平均値3以上とする

	面接官①	面接官②	面接官③	面接官④	面接官⑤	平均値
Aさん	4	4	3	2	5	3.6
Bさん	3	4	3	4	4	3.6
Cさん	5	4	2	3	1	3.0

分析の仕方

標準偏差：平均値だけでは把握できない数字のばらつき度合いを示す数値
数字が大きいほどばらつき度合いが大きいことを示す

	面接官①	面接官②	面接官③	面接官④	面接官⑤	平均値	標準偏差
Aさん	4	4	3	2	5	3.6	1.020
Bさん	3	4	3	4	4	3.6	0.490
Cさん	5	4	2	3	1	3.0	1.414

【計算式】 標準偏差 s を求める式

$$S = \sqrt{\frac{1}{n} \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2}$$

(n はデータの総数、 x_i は個々の数値、 \bar{x} は平均値)

Bさんの標準偏差を求める場合

$$\sqrt{1/5 \times ((3 - 3.6)^2 + \dots + (4 - 3.6)^2)} = 0.490$$

【Excel の場合】 STDEVP 関数

分析結果からわかること

面接官の平均点は同じ点数であったAさんとBさんのうちどちらを採用するか検討した結果、
全面接官から安定して良い評価が得られているBさんを採用する。

(※すべての採用基準に当てはまるわけではないので目安の1つとしてください)

平均値と標準偏差の値を活用するだけで客観的にどの者を採用した方が良いのか明らかに
できる。平均値は外れ値（極端な値）に引っ張られやすくばらつき具合がつかめないことが
多いことから、データのばらつき具合がわかる標準偏差も併せて使用する。

